

KIBOKO



東北大学附属図書館報 木這子 Vol.45, No.2 **新型コロナウイルス感染症対策号**



「留学生コンシェルジュサービス」を再開しました！

附属図書館本館で働く留学生スタッフ「留学生コンシェルジュ」は、多言語での図書館利用案内や学習相談などを行っています。コロナ禍のため、半年間デスクをお休みをしていましたが、11月から無事に再開することが出来ました。感染防止対策を万全に整えた上で、皆様をお待ちしています。

年明けには、恒例の図書展示「SDGs × International Student Concierge」も実施予定で、今回は、SDGsについてのコンシェルジュ達からのメッセージ動画も発表します。どうぞお楽しみに！

Contents

表紙

「留学生コンシェルジュサービス」を再開しました！ ①

TOPICS

●インタビュー：副館長がすすめる青春の一冊 ②

●Go To 図書館
—コロナ禍の中、図書館の安心・安全な取り組み—
●本館の取り組み ③

●GoTo 図書館キャンペーンに関連した企画展示 ④

●各館の取り組み
医学分館・北青葉山分館 ⑤
工学分館・農学分館 ⑥

●コロナ禍での図書館のオンライン戦略
●電子ブック ⑦
●デジタルアーカイブ ⑧



東北大学附属図書館報

KIBOKO

本誌「木這子(きぼこ)」は、東北地方の方言で「こけし」を意味します。最寄りの附属図書館本館・各分館等で配布しておりますので、図書館の情報誌として、皆さんの学習や研究に、どうぞお役立ててください。ご意見・ご感想は lib-som@grp.tohoku.ac.jp 宛にメールでお寄せください。

<http://www.library.tohoku.ac.jp/>

インタビュー

副館長がすすめる青春の一冊



有光秀行教授が附属図書館新副館長に就任されました。

プロフィール

有光 秀行 (ARIMITSU, Hideyuki)

所属・職：文学研究科西洋文化学講座 教授

専門分野：ヨーロッパ史 (特にイギリスの中世史)



有光副館長は、文学研究科教授で、西洋史がご専門です。
学生時代の思い出深い図書などについて、伺いました。

Q1

本学の附属図書館にどのような印象をお持ちですか？

感染症の影響で、今年度の図書館は残念ながら一時休館やサービス縮小を余儀なくされてきましたが、そうした中で、少しでも利用者の役に立ちたいと考え努力する職員の方々のプロ意識と、さまざまな事態に対応する高い能力とに直接ふれ、感服する機会が多々あります。質量共に国内屈指の蔵書、高度な知的生産の拠点として更新され続ける環境など、学生・教員にとって心強い存在とかねてより感じていましたが、最近は図書館を支えて下さる方々という面からも、そのことを実感しています。

Q2

先生ご自身は、附属図書館をどのようにご利用されていますか？

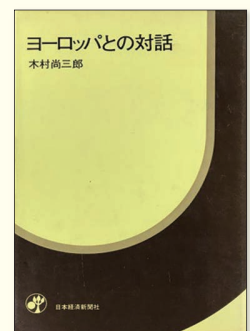
私は紙の資料が大事な人文系の研究者ですが、電子蔵書を館外のパソコンから利用することも日常の研究生活の一部となって久しいです。ただ、所在と分類番号を検索した上でのピンポイント対面、背表紙を見ての偶然の出会いなど、じっさいに図書館に足を運び蔵書にふれる楽しさは今も昔も変わりません。館内の各種展示も見応えがあり、年に一度の企画展では漱石・狩野をはじめ著名な各種文庫の貴重さを実感しますし、手紙や料理など多様なテーマのミニ展示では選者の書物愛が感じられてうれしいです。また利用者のために用意されている空間の多様さにも感心しますが、職員の方が密かに「ファミレス席」と呼ぶ、居心地のよさそうなあのコーナーだけは席数少なく人気は高く未体験で、いつかぜひ！と思っています。



Q3

先生の青春の一冊を教えてください。

たいへん難しい質問！迷いに迷った末、今日は木村尚三郎『ヨーロッパとの対話』（日本経済新聞社、1974年）を選びましょう。今となっては時代を感じる部分もありますが、たとえば20ページの「異質な者と直面するとき、人ははじめて精神的緊張、ないしは恐怖感を覚え、積極的に相手をわかり、自己をわからせようと努力する。そしてその苦闘のなかで、はじめて自己とは何か、現代とは何か、日本とは何かが見え出してくる。そしてそれとともに、はじめて人間性の尊厳についての意識が生まれ、他人にたいする無意識的な傲慢、あるいは一方的な寄りかかりや心酔を脱して、真にヒューマンズムをめざす謙虚な自己、世界性を持つ新たな自己が創り出される」という記述を読むと、ここに自分の学問の原点があると、あらためて感じます。現代日本で西洋を学ぶ意義と、新しい研究成果を踏まえた斬新な中世世界の姿とを一般読者にわかりやすく説く、木村先生の一連の著書（と講義）に接していなければ、ひょっとしたら西洋史研究の道を志すこともなく、大学教員になることもなく、そして副館長となって、こうしてこの原稿を書くこともなかったかもしれません。さて明日なら何を選ぶでしょうか。『本の神話学』？『エロティック街道』？『カタロニアへの眼』？『青年／妄想』？『みみずく英学塾』？『綿の国星』？…。



『ヨーロッパとの対話』
木村尚三郎著
(日本経済新聞社、1974年)
本館書庫 GG61/021

Go! To! 図書館

コロナ禍の中、図書館の安心・安全な取り組み

本館



本館は、4月13日からおよそ2ヶ月の臨時休館（5月14日からは、事前予約のあった資料を受付で渡す「出納貸出」を開始）を経て、6月22日に再度開館しました。再開館当初は館内への滞在時間を30分以内に制限して貸出・返却のみ可能とし、学習席も利用できない状況でしたが、サービス内容を徐々に拡大しながら現在に至っています。

利用者と職員が対面で会話するメインカウンター等は、飛沫拡散防止のためのパネルを設置して感染症対策仕様になりました。また、自動貸出機の前等には2m以上間隔を空けて並んでもらうためのフットプリントを貼り付けています。

資料や学習についての相談を受け付けるレファレンスデスクは会話が長時間になりやすいことから、再開館後しばらくはオンラインで対応していました。しかし、東北大学全体のBCPレベルが下がったことを受けて現在はサービスを再開しています。こちらにもパネルを設置し、安心して相談ができるようになっています。

大きく様変わりしたのは、メインフロアや、かつてグループで会話しながら利用が可能だったエリアです。不特定多数の人の手に触れてしまうため、メインフロアの共有デスクトップパソコンは一時的に撤去しました。（併せて、ノートパソコンの自動貸出機も利用を休止しています）。そして、できるだけ多くの人が距離をとりつつ学習できるよう、机・椅子の配置を大幅に変更しました。自由に機の移動や

会話ができたフレキシブルワークエリアやグローバル学習室は、机を固定しグループでの利用を禁止せざるを得ませんでした。これらのエリアは現在、オンライン授業等でパソコンを介して会話が可能な場所として開放しています。グループ学習室も、複数人での利用は休止中ですが、オンライン面接等のために1人限定での利用を再開しました。

そして、9月28日から10月2日にかけて、職員による講義と館内ツアーで図書館の利用方法や資料の探し方について学ぶイベント「図書館ガイダンス・ツアー」を開催しました。本来4月に行うはずだったガイダンスはすべて中止となっていたため、半年遅れでやっと実施することができました。新入生を中心に5日間で113名の参加があり、用意していた座席が足りなくなるほどでしたが、ツアーは少人数のグループで行うなど感染症対策をしながら無事に終了しました。

さらに、「Go To 図書館キャンペーン」と題して、展示を中心に様々なイベントを実施しています。「図書館に行けば、何か面白いものがある」と思ってもらえるよう、各館で様々な企画を用意していますので、ぜひ足を運んでみてください。

今後も、状況を見極めながらウィズコロナ時代の図書館のあり方を探っていきます。みなさんに安心して利用してもらえるよう努めますので、長期休館していた分まで取り戻すよう、存分に活用してくださいね。



▶顔を映すと、一瞬で検温・マスク着用のチェックができます。



▶距離を確保して安心して学習できるよう座席を配置しました。オンライン講義などのためにPCを介した会話が可能なエリアです。



Go! To! 図書館



本館



「GoTo図書館」キャンペーンに関連した本館の企画展示

【ノーベル賞記念ミニ展示】

10月9日から12月10日まで、2020年のノーベル賞発表にあわせたミニ展示を開催しました。ゲノム編集の新技术「CRISPR/Cas9 (クリスパー/キャス9)」を開発してノーベル化学賞を受賞したジェニファー・ダウドナ教授(カリフォルニア大学パークレイ校)に関連する図書や受賞を報じる新聞記事、ダウドナ先生が2018年に本学で講演を行った際の写真等を展示しました。

展示した資料のひとつに、ダウドナ先生のサインが入った分子生物学の教科書があります。これは、本学の生命科学研究所に在籍していた笠原善太郎さんにお借りしたものです。ちょうどゲノム編集が生まれた時期にカリフォルニア大学へ留学していた笠原さんが、ダウドナ研究室でゲノム編集技術開発チームの一員として研究をしていた際にいただいたものなということです。

みなさんの研究活動も、ノーベル賞を獲得するような大発見につながっているかもしれません。



▶ダウドナ先生がノーベル化学賞を受賞されました。

【川内キャンパスの過去を探る —川内駅前の発掘調査成果から—】

10月24日から11月29日まで、埋蔵文化財調査室による展示「川内キャンパスの過去を探る-川内駅前の発掘調査成果から-」を開催しました。仙台地下鉄東西線川内駅の建設工事に伴って行われた発掘調査とその後の資料整理作業、あわせて9年に及ぶ調査の成果を公開したものです。調査が行われた川内駅の周辺には、かつて武家屋敷が広がっていました。出土した磁器や陶器の食器類、農具、人形等の玩具といった遺物は、その武家屋敷で用いられていたものと考えられます。



▶出土した生活用品などから、武家屋敷の生活を想像することができます。

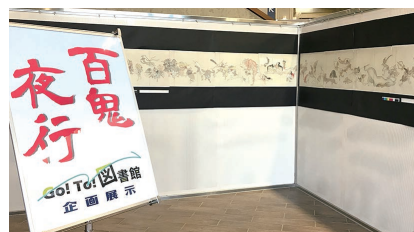
【百鬼夜行展】

11月27日から2月18日まで、エントランス展示コーナーにて「百鬼夜行展」を開催しています。狩野文庫(文学博士・狩野亨吉の旧蔵書からなる古典資料コレクションで、「江戸学の宝庫」と称される)のひとつである絵巻「百鬼夜行」をパネル化し、展示するものです。全長約8.5mに及ぶ絵巻に描かれた、列をなして練り歩く個性的な鬼や妖怪たちの姿を一覧することができます。

また、この展示の一環としてNintendo Switchのゲームソフト「あつまれどうぶつの森」内で「マイデザイン」として利用できる鬼や妖怪のQRコードをTwitterとInstagramで公開しました。ゲームというバーチャル空間でも展示を行う、当初初のハイブリット型の企画です。「鬼」が話題の今、図書館の鬼たちにもぜひ会いに来てください。



▶「あつまれどうぶつの森」で飾ってみるとこんな感じ。髭の男性は、絵巻を収集した狩野亨吉先生です。



▶「百鬼夜行」の名の通り、本当に100匹の鬼や妖怪が描かれています。

TOPICS

医学分館

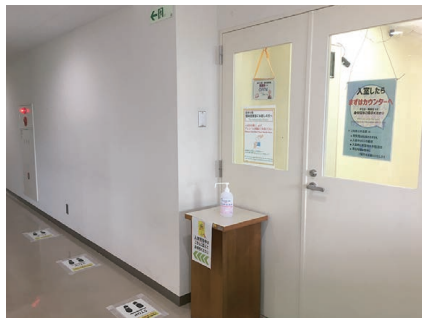


新型コロナウイルス感染拡大により、医学分館臨時図書室も4月13日から休室となりました。しかし、このような時だからこそ、医学系図書館として医学・医療情報を提供し続けようと、文献複写サービスは停止せずに、本学の大学院生・教職員ならびに学外からの依頼に対応しました。

6月22日の再開以降は、飛沫防止フィルムを設置し、定期消毒・換気などを行いながら臨時図書室を運用しています。後期は一部対面授業が再開されたこともあり、入室者が増えたため、密集になりそうな時には、室外でお待ちいただいています。

9月末と10月には、当館主催のデータベース講習会をオンラインで計8回開催し、延べ60名以上と、昨年度までの対面講習会より、多くの方に参加いただきました。

医学分館の改修工事は、新型コロナの影響で工期が延長され、10月末に完了しました。現在は、リニューアルオープンに向けて、資料の移設を進めています。また、ニューノーマルを見据えた什器の選定、運用の検討を行っています。春には、新しい図書館に皆さんをお迎えできることを楽しみにしています。



▶臨時図書室入口



▶改修後の医学分館 カウンター付近 (11月撮影)

北青葉山分館



北青葉山分館では、コロナ禍でも利用者の皆さんができるだけ安心・安全に図書館や資料の利用ができるよう様々な取り組みを行っています。

入り口には自動検温装置と手指消毒剤を、各階ごとに機の除菌用のウェットティッシュを、配置しています。また、自動貸出機やOPAC端末のそばには手指消毒剤の他、OAKリーナーも配置しています。マスク着用徹底といった基本的な感染予防のほか、これらも活用し、各自が感染予防を心がけ、安心して利用していただけますと助かります。

また、4月に全面休館が決まった際には、いち早く電子ブック試読サービスを企画、実施し、その後、試読結果を反映した電子ブックの購入を行いました。さらにシラバス掲載図書やリクエスト等での資料購入の際にも積極的に電子ブックを選定しています。利用者の皆さんの希望を生かす利用者投票による選書は、開館再開後の7月7日から2週間にわたり生協理薬店を会場に『選書まつり in 生協理薬店』を、後期の授業開始後の10月7日からは当館エントランスで『北分 本マルシェ』を、それぞれ開催しました。『北分 本マルシェ』では非来館者に向け、ウェブ投票も実施しました。10月に行ったガイダンスではフィジカルディスタンスを意識した座席配置、トレーサビリティの担保など、感染防止に努めました。

北青葉山分館では今後もウィズコロナを見据えた蔵書構成やイベント開催を心掛けてまいります。皆様のご来館をお待ちしております。



▶自動貸出機とOPAC端末



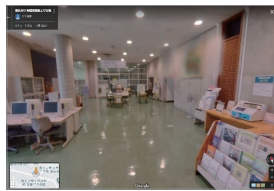
▶ガイダンスの様子

Go! To! 図書館

工学分館

ウェブサービス増やしました

- **チャット開始 (7/7 ~)** いろいろな質問を受け付けています。お気軽にご利用ください。
- **Twitter (@KobunLib) 開始 (9/9 ~)** 工学分館や図書館およびその周辺の、とくに学生のみなさんに役立つ情報の提供を目指しています。フォローをお願いします！
- **館内ストリートビュー作成*** 館内ツアー気分を味わってください。
* オープンキャンパス用ウェブサイト (<https://oc.eng.tohoku.ac.jp/eng-lib/>) をご覧ください。



▶ 館内ストリートビュー

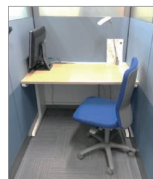
Go To 工学分館

- 三密を回避するためのレイアウト変更や換気など、感染防止対策に努めながら、個人学習用席の増設や、ウェブ面接受験用個室など利用目的に合わせた場所の提供



▶ 旧グループ学習エリア

を行っています。オンライン授業の受講にもよく利用されているようです。



▶ Language Studio



▶ 旧パソコンエリア



▶ ウェブ面接用個室 (旧グループ学習室)

- **貴重書の展示* (10/19~30)** のほか、論文作成や発表に役立つ図書の展示、クリスマスデコレーションなど行っています。1月には恒例の古本まつりも予定しています。
* 展示解説や写真を工学分館ウェブサイトで公開しています。
<http://www.library.tohoku.ac.jp/eng/englib/archive/20201019.html>



▶ 『Il Tempio Vaticano e sua origine』1694年



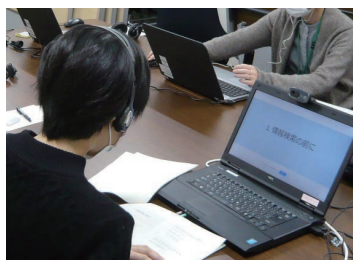
▶ クリスマス飾り@ エントランスホール

農学分館

農学分館は例年通り4月から新入生を迎えて通常開館する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で4月早々休館となりました。大学の前期授業がオンラインとなり、同時に分館職員も約2か月間、出勤とテレワークを併用した勤務体制となりましたが、休館時も図書貸出、蔵書点検、選書、図書委員会の開催(メール会議)、オーダーメイド講習会等、可能



▶ 間隔を空けて利用するロフト席



▶ オンライン講習会配信

な限り利用者に貢献できるよう活動してきました。

特にオーダーメイド講習会は、農学研究科に承る旨の通知メールを送付した直後から依頼があり、オンライン教材としての需要を感じました。スライド資料に動画やナレーションを付けた教材の作成・配信、Google Meetによるオンライン講習会を行い、現在は依頼があれば対面の講習会も再開しています。

6月下旬に分館は再開館となりましたが、開館するにあたり、消毒を徹底し、閲覧席は一つ置きに利用可とし、ラーニング commons の机も隣同士、真向かい同士に座らないように注意喚起しています。今後の動向は誰にもわからない状況ではありますが、その都度その状況に合わせた利用者へのサービスができるよう、各館と情報共有しながら進めていきたいと思っております。



コロナ禍での図書館のオンライン戦略

電子ブック

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、附属図書館各館は4月上旬から臨時休館の措置を講じました。

来館することのできない利用者のために、本館では「Go To 図書館」に掲載した対策と併せ、早期から電子ブックの整備に取り組みました。4月中には全学教育科目等のシラバスに掲載されている教科書・参考書について、電子ブック出版されているものはすべて購入する方針を定め、以降そのほかの図書についても積極的に電子ブックを導入しています。

電子ブックの利点は、インターネットを利用できる環境さえあればどこからでも閲覧できることです。本学は「学認」¹⁾という認証システムに参加しており、それにより本学構成員は自身の「東北大ID」とパスワードを使用して、自宅等の図書館から離れた場所でも電子ブックを読むことができます（一部洋書の出版社など、「リモートアクセスサービス」²⁾によるアクセスとなる場合もあります。詳細は図書館ウェブサイト「電子ブック」ページ (<http://www.library.tohoku.ac.jp/search/ebook/ebook.html>) でご確認ください。

電子ブックへのアクセスは上記「電子ブック」ページに各出版社のプラットフォームへのリンクがあるほか、東北大学附属図書館蔵書検索 (OPAC) から検索・アクセスできます。学習に有用な電子ブックがたくさんありますのでぜひ利用してみてください。

1 OPACで資料を検索する

2 [eBook] ボタンをクリック (学内からアクセスした時はそのまま電子ブックを利用可)

3 学認アカウントによる認証を選択

4 「東北大学」を選択

5 「東北大ID」とパスワードを入力してログインすると電子ブックを利用できます

OPACからの電子ブックアクセス方法 (「学認」による認証例)

(学外からアクセスした時は以下のような認証を行う)

- 1) 「学認」は国立情報学研究所や大学、出版社等が連携し、大学が発行したID・パスワードを使って、大学が契約済の電子ブックや電子ジャーナルなどをどこからでも利用できるようにする仕組みです。
- 2) 本学では学内構成員に対し、学外から学内にあるサーバやシステムにアクセスできる「リモートアクセスサービス」(VPN)を提供しています。必要な設定等、詳細は東北大学総合情報ネットワークシステムウェブサイト (<https://www.tains.tohoku.ac.jp/contents/>)にてご確認ください。

本学で利用できる電子ブックの例

●2020年度講義 指定教科書・参考書



<https://elib.maruzen.co.jp/elib/html/BookDetail/Id/3000088612>

『マンキュー入門経済学 第3版』
東洋経済新報社 N・グレゴリー・マンキュー著、足立英之ほか翻訳、2019

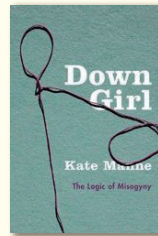
世界的に利用されている経済学の入門テキスト。各章末に自分の理解度を確認できる復習問題などが付されています。(学認/VPN可)



<https://elib.maruzen.co.jp/elib/html/BookDetail/Id/3000042714>

『Rで楽しむ統計』
共立出版、奥村晴彦著、2016

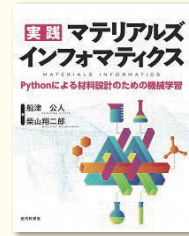
統計処理のためのオープンソース「R」を使って楽しみながら統計を学べる教科書。始めに基礎的な操作方法が開設されているので、初心者にもわかりやすくなっています。(学認/VPN可)



<http://dx.doi.org/10.1093/oso/9780190604981.001.0001>

『Down girl : the logic of misogyny』
Oxford University Press, Kate Manne著、2017

アメリカ哲学会のBook Prize (2019)を受賞した分析的フェミニズムのベストセラー。邦訳「ひれいせ、女たち」も電子ブックで読むことができます。(VPN可)



<https://elib.maruzen.co.jp/elib/html/BookDetail/Id/3000091707>

『実践 マテリアルズインフォマティクス: Pythonによる材料設計のための機械学習』
近代科学社、船津公人、柴山翔二郎著、2020

情報科学の技術を材料科学に取り入れた学問分野「マテリアルズインフォマティクス」を実践するための機械学習法が丁寧に解説されています。(学認/VPN可)

電子ブック利用時のマナー

和書の電子ブックは、同時アクセス数に制限があることが多いです。利用後は電子ブックサイトの表示を確認し、「閲覧終了」等のボタンがある場合は次の利用者のために、必ずそちらを押して終了してください。

TOPICS

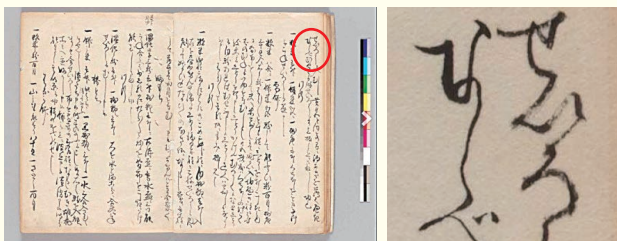
コロナ禍での図書館のオンライン戦略

デジタルアーカイブ

デジタルアーカイブという言葉を知ったことがありますか？ 図書館や博物館、美術館、公文書館などの所蔵資料のデジタル画像のデータベース化で、オンラインで公開されているものも増えてきています。国内で有名なものとしては、国立公文書館デジタルアーカイブ (<https://www.digital.archives.go.jp/>) があります。最近では、ジャパンサーチ (<https://jpsearch.go.jp/>) のように、複数のデジタルアーカイブをまとめて検索できるサービスもできています。

以前は、他の機関が所蔵している資料を見たいと思ったら、その機関に行く必要がありました。図書や論文の形で写真が出版されている場合もありますが、写真の解像度はそれほど高くないことが多く、また掲載されている写真の枚数にも制限がありました。

しかし最近のデジタルアーカイブでは、探していた資料全ページの解像度の高いデジタル画像が公開されていることも珍しくなくなってきました。オンラインで公開されているので、例えば北海道の大学が持っている資料のデジタル画像と、ロシアの図書館が持っている資料のデジタル画像を、自分のデスクのディスプレイで比較するといったことが簡単にできるようになってきました。「解像度が高いと言っても、所詮は画像、本物の代替にならないのでは？」と疑問を持たれるかもしれません。しかし最近では画像のクオリティが向上してきています。図1は、国文学研究資料館で公開されている東北大学所蔵の「萬葉子の仕様」¹⁾ という資料です。赤丸で囲った部分を拡大したものが図2です。普通のウェブブラウザ上でも、墨の擦れぐあいもわかるくらいまで、簡単に拡大できます。



▶ 図1 「萬葉子の仕様」右端のカラーチャート ▶ 図2 図1の赤丸部分を拡大は一目盛1cm

昨今のコロナ禍もあり、オンラインで資料を利用できるデジタルアーカイブの重要度が高まってきています。附属図書館では、以前から所蔵資料の電子化を積極的に行ってきました。電子化した画像は、東北大学デジタルコレクション (https://www.i-repository.net/il/meta_pub/G0000398tuld) で公開しています。しかし、ここで公開されているものは、附属図書館の所蔵資料のごく一部でしかありません。東北大学のコレクションでは、漱石文庫と狩野文庫が特に有

名です。漱石文庫は、文豪・夏目漱石の旧蔵書です。狩野文庫は、明治の思想家・教育者として有名な狩野亨吉の10万点をこえる旧蔵書で「古典の百科、江戸学の宝庫」として世界的にも知られた資料群です。どちらも極めて重要な資料ですが、デジタルコレクションでは部分的にしか公開できていませんし、また十数年前に電子化したものなので画質等も満足のものではありません。附属図書館では、2019年にクラウドファンディングで「漱石の肉筆を後世へ！ 漱石文庫デジタルアーカイブプロジェクト」事業により多数の方から御支援を頂き、漱石文庫のデジタル化事業を進めています。また国文学研究資料館の「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」により、狩野文庫を中心にデジタル化を進めています²⁾。

附属図書館の所蔵コレクションは、他にもたくさんあります。今後もデジタル化を戦略的に進め、デジタルアーカイブを通じた資料の提供サービスを充実させていきます。

- 1) 萬葉子の仕様 (よろずかしのしよう)
<http://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/100306929>
- 2) プレスリリース「古典の百科、江戸学の宝庫」東北大学狩野文庫をデジタル公開へ 東北大学附属図書館所蔵狩野文庫の古典籍を国文研でデジタル化
<https://www.tohoku.ac.jp/japanese/2020/09/press20200924-01-kano.html>

東北大学狩野文庫デジタルアーカイブシンポジウム「江戸に学び、江戸に遊ぶ」

国文学研究資料館による狩野文庫のデジタルアーカイブ化を記念して、12月20日(日)に開催しました。ロバート キャンベル国文学研究資料館長にご講演いただき、事業概要、狩野文庫のデジタル化計画や活用事例を紹介し、デジタルアーカイブの今後について議論しました。

